

## 平成30年度石巻市復興公営住宅入居者等健康調査概要

担当；健康部健康推進課

### 1 調査内容

#### (1) 復興公営住宅入居者訪問健康調査（入居1～2ヵ月後：市独自）

① 目的

復興公営住宅入居世帯に家庭訪問し健康調査を行うことで、健康状態及び生活のニーズを把握し、要フォロー者を適切な健康支援に結び付けるとともに、入居者への迅速な支援体制づくりや健康支援事業等に活用する。

② 対象者 復興公営住宅入居者（平成30年2月～平成31年1月）

③ 調査時期 平成30年4月から平成31年3月まで

④ 健康調査状況

**対象世帯数；412世帯 調査世帯数；343世帯（回収率83.3%） 調査人数；622人**

⑤ 調査方法 調査員（みやぎ心のケアセンター、宮城県看護協会、市健康推進課・各総合支所保健福祉課）による訪問健康調査

#### (2) 災害公営住宅入居者健康調査（入居1年経過した世帯：県と市共同）

① 目的

入居者の健康状況を把握し、要フォロー者を必要な健康支援事業に結び付けるとともに、施策展開の基礎資料とする。

② 対象者 平成29年10月までの復興公営住宅入居者

③ 調査時期 平成30年11月から平成31年2月まで

④ 健康調査状況（表1のとおり）

**対象世帯数；3,624世帯 調査世帯数；2,267世帯（回収率62.6%） 調査人数；3,789人**

⑤ 調査方法 郵送による配布・回収によるもの（社協訪問支援員による声かけあり）

#### (3) 防災集団移転団地入居者健康調査（団地入居世帯：県と市共同）

① 目的

入居者の健康状況を把握し、要フォロー者を必要な健康支援事業に結び付けるとともに、施策展開の基礎資料とする。

② 対象者 平成30年8月末までの入居者〔渡波・荻浜・河北・雄勝・北上・牡鹿地区〕

③ 調査時期 平成30年11月から平成31年2月まで

④ 健康調査状況（表2のとおり）

**対象世帯数；389世帯 調査世帯数；249世帯（回収率64.0%） 調査人数；723人**

⑤ 調査方法 郵送による配布・回収によるもの（社協訪問支援員による声かけあり）

## 2 健康調査結果から見たもの

### (1) 全体の健康調査結果をとおして

#### ① 災害公営住宅入居者健康調査結果から (表1)

##### \* 独居・2人暮らし世帯、独居高齢者世帯の割合が高い

- ・ 独居・2人暮らしの割合が84.7%と高い。
- ・ 独居高齢世帯の割合については32.8%と、本市の独居高齢者の世帯の割合11.0%(表3-1)と比較しても高い傾向にある。

##### \* 65歳以上の高齢化率が高い

- ・ 健康調査結果の65歳以上の割合は52.8%で、本市の高齢化率32.4%(表3-2)及び復興公営住宅入居者の高齢化率42.84%(表3-3)と比較しても高い傾向にある。

##### \* 生産年齢の無職者の割合は減少傾向

- ・ 15~64歳の生産年齢の無職者の割合が21.8%(24.0%)と減少している。

##### \* 入居の経過とともに行事への参加が増えている。

- ・ 「行事への参加あり」は40.2%(38.7%)と増加傾向にあることから、地域での交流が始まっていると考えられる。

##### \* 体調面は改善傾向

- ・ 「体調がよい」の割合が79.2%(77.8%)と増加し、「体調が悪い」の割合が20.8%(22.1%)と減少していることから、体調の改善傾向が見られる。

##### \* 心の問題は悪化傾向

- ・ 「眠れない」16.2%(16.7%)、「飲酒の問題」1.9%(1.9%)のいずれ割合もほぼ横ばいであるが、「心の問題(K6:13点以上)」の割合は8.3%(7.8%)と増加傾向にある。

##### \* 「相談相手がない」の割合は横ばい

- ・ 「相談相手がない」の割合については、20.9%(20.4%)とほぼ横ばいである。

##### \* 「病気がある人」の割合は横ばい

- ・ 「病気がある人」の割合が63.8%(64.0%)と横ばいであるが、特に高血圧35.1%(33.5%)とがん6.1%(5.3%)が増加傾向にある。

#### ② 防災集団移転団地入居者健康調査結果から (表2)

##### \* 独居・2人暮らしや独居高齢者世帯も少なく、世帯人数も多い多世代家族。

- ・ 独居・2人暮らしの割合が41.4%、独居世帯の割合は、本市の独居世帯の割合29.9%(表3-1)と比較すると14.1%と低い状況にある。世帯あたりの平均人数2.9人

##### \* 無職者の割合が低い

- ・ 無職者が19.5%で、15~64歳の生産年齢の割合も4.9%と復興住宅調査結果と比較すると低い。

##### \* 体調や心の状態がよい傾向にある

- ・ 体調がよいが90.2%、「心の問題(K6:13点以上)」は5.0%と、復興住宅入居者よりも心身の健康状態がよい傾向にある。

- ・ 相談相手がない割合も12.9%と復興住宅調査結果と比較すると低い。

##### \* 身体を動かす機会や行事への参加が増えている

- ・ 「身体を動かす機会の減少」は22.2%、「行事への参加あり」は65.9%と復興住宅と比較すると身体を動かす機会や地域での交流や人のつながり等があると予測される。

## (2) 要フォロー者の概要

### ・ 災害公営住宅入居者健康調査（入居1年以上経過）

調査人数	要フォロー者数（率）・内訳
3,789人	385人（10.2%） 心の問題、アルコール問題、体調不良、治療中断等

・ 新たな要フォロー者は、10.2%と前年度の9.3%よりも高く、そのうち約半数以上が心の問題でのフォローとなり、家族問題、経済的問題など複合的な問題を抱えるケースも多い。

## 3 全体の考察

### \* 復興公営住宅入居者について

- 独居・2人暮らしが8割を占め、高齢者が約半数、「相談相手がいない」割合が2割おり、心の状態も悪化傾向にあることから、自死や孤独死予防等のために引き続き「生きることの包括的支援」のため関係者の連携強化が必要。
- 関係機関との連携による就労に関する相談や支援等の働きかけもあり、生産年齢の無職者の割合が減少していると考えられる。
- 病気がある人が6割を超えていることから、高血圧や糖尿病等の生活習慣病の重症化予防やがんの早期発見・早期治療等のために、引き続きがん検診及び特定健診等の受診勧奨、食事や運動等の生活習慣改善のための取り組みが必要となる。
- 入居の経過とともに身体を動かす機会が増えていることから、生活の定着により地域での交流等の活動的な生活ができていると推測できる。
- 入居の経過とともに行事への参加が進み、各団地で自治会の結成による交流ができていることが考えられる。

### \* 防災集団移転団地入居者〔渡波・荻浜・河北・雄勝・北上・牡鹿地区〕について

- ほとんどが半島の防災集団移転団地であり、地域のつながりや何らかの仕事や役割を持ち、心身の健康状態もよい状態が維持できていると考えられる。

## 4 今後の取り組み等について

### ○ 生活の安定に向けた相談支援の充実（関係課と連携した相談会等の実施）

- ・ 健康や無職者、生活困窮等の巡回相談「せいかつ・けんこう・しごと・こまりごと相談会」の実施
- ・ 生活困窮者や被災者等への支援の強化
- ・ 相談窓口の周知の強化（SOSの出し方強化事業）

### ○ 自死予防及び孤立予防対策のための「生きることの包括的支援」体制整備の強化

- ・ 自死対策推進計画の推進
- ・ 関係機関及び庁内の横断的な連携を強化し、被災者支援に関する定期的検討会議の開催
- ・ 孤立を防ぐ居場所づくりのために、地域でのサロン活動や孤立を生まない地域づくり事業など孤立防止や健康保持の支援を実施
- ・ 聴き上手な市民を増やすために、聴き上手養成講座、ゲートキーパー研修会等の実施

○ **生活習慣病及び重症化予防の強化**

- ・ 特定健診の無料化
- ・ 特定健診、がん検診等の受診勧奨
- ・ 検診受診後の精密検査及び生活習慣病予防のための保健指導の実施

○ **健康に暮らせるための体制づくり**

- ・ 専門職による心のケアのための相談、家庭訪問等の継続実施（心のサポート拠点事業）
- ・ 健康意識の向上及び健康づくりの推進

⇒市内の商業施設 5 か所で「まちの保健室」継続開催

（イオンモール石巻、イオンスパセンター石巻東店、ヨークベニマル大街道店、ヨークベニマル湊鹿妻店、イトーヨーカドーあけぼの店）